

世界の主要拠点 (平成23年3月31日現在)

国内

本 社	横 濱					
営業拠点	仙 台	太 田	大 宮	東 関 東	横 濱	福 井
	松 本	静 岡	名 古 屋	大 阪	岡 山	福 岡
事 業 所	福 井	加 賀				



Sodick
株式会社 ソディック

〒224-8522
横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号
TEL: 045-942-3111
FAX: 045-943-5835
(証券コード: 6143)



●このカタログはFSC 森林認証用紙と植物性インキを使用しています。

ホームページのご案内

<http://www.sodick.co.jp/>

株主の皆様からの声をお待ちしております。

当社では、株主の皆様からのご意見・ご質問をお受けしております。
お気軽に下記のメールアドレスまでお寄せください。

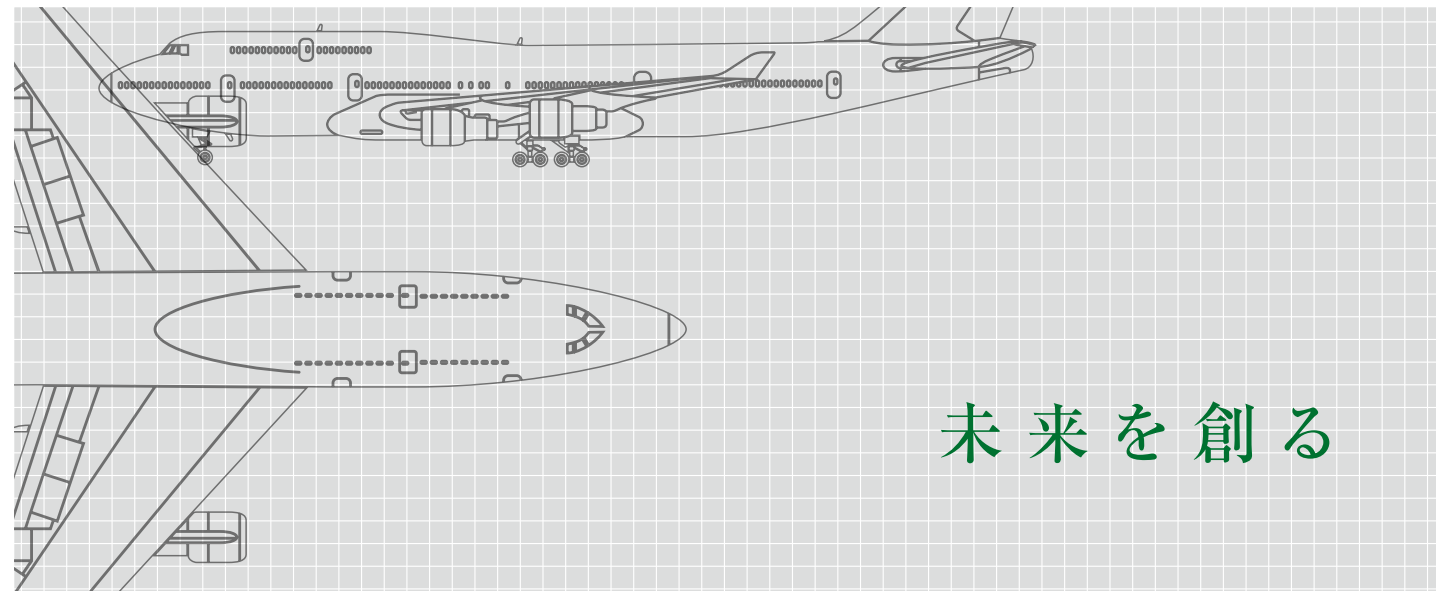
メールアドレス ir@sodick.co.jp



モバイルサイトのご案内

<http://www.sodick.co.jp/mobile>

展示会情報・サポート情報・ソディック製品にまつわる最新情報等を随時更新しています。



未来を創る

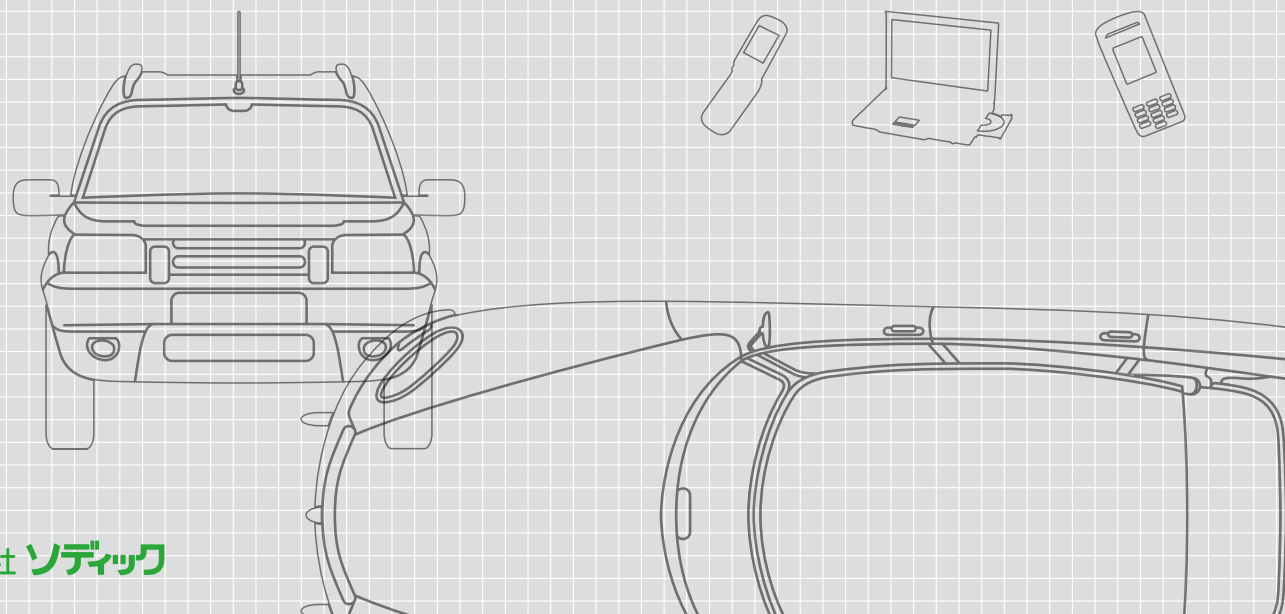
第35期

事業報告書

平成22年4月1日～平成23年3月31日

Sodick

Business Report



株式会社 ソディック

東日本大震災の対応について

平成23年3月11日に発生いたしました東日本大震災につきましては、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。当社は被災されたお客様の窓口として「緊急対策本部」を設置し、設備の復旧に努めました。その結果、4月中にはお客様からの復旧サービス要請のほぼ100%に対応完了いたしました。

新製品 “40形蛍光灯代替LED灯SL-1200” (株式会社ソディックLED)

ソディックグループでは電気を操る放電加工機トップメーカーの総力を結集し、オフィスや工場の節電対策に貢献すべく、40形蛍光灯代替LED灯SL-1200を開発いたしました。LED灯SL-1200は新開発電源による高効率駆動により1ワットあたりの直下照度が蛍光灯と比較して約2.7倍、節電率60%と大変経済的です。



「SL-1200」

- 主な特長
1. 節電60%
 2. 既設蛍光灯と取り替えるだけ
 3. 照射角度調整が可能
 4. 新開発電源(特許出願中)
 5. 環境と人にやさしい設計(高いリサイクル性と少ないチラツキ)

また、従来のLED灯は蛍光灯器具の改造工事が必要であり、導入時の課題となっておりますが、SL-1200は入力電源のワールドワイド対応により工事不要の簡単取り付けを実現いたしました(インバータタイプを除く)。

“長寿命”“省エネ”“工事不要”のSL-1200は、一般オフィスから工場、高所などメンテナンスの難しい所、その他多くの場所で末永くお使いいただけます。

新製品 大型形彫り放電加工機の新製品の開発 (工作機械事業、株式会社ソディック)

航空宇宙産業、エネルギー産業や自動車産業では大型金型加工用の放電加工機のニーズは高く、そのご要望にお応えするため、大型形彫り放電加工機「AG80L-LST」「AQ15L」「AG100L」を開発し、販売を開始いたしました。特に、目覚ましい成長をとげて世界最大級の規模となった中国の自動車産業は、旺盛な設備投資が期待できます。

大型形彫り放電加工機「AG100L」



未来を創る

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、本年3月に発生いたしました東日本大震災により被災された皆様に、謹んでお見舞い申し上げ、一日も早く復興されますよう心からお祈り申し上げます。

最初に、この度の災害の当社グループへの影響をご報告申し上げます。当社グループでは仙台営業所が被災地域に所在しており、電気、ガス、水道、ガソリンなどのライフラインの断絶により一時業務が停止いたしました。幸いにも人的被害はなく、物的被害も軽微であったため、現在は業務を再開しております。当社グループは、被災されたお客様の生産の再開、回復に向けて全社一丸となって復旧作業に全力を尽くしてまいります。なお、当期の業績に対して重大な影響はございませんでした。

当期の経営環境は、日本をはじめ、米国や欧州などの先進国地域では、景気悪化に歯止めがかかりましたが、本格的な景気回復にはいたっておらず、主力製品である放電加工機の需要も弱含みで推移いたしました。一方、中華圏に目を向けますと、好調な経済成長に支えられ、放電加工機の需要は急回復し、他地域の不調を補う形となりました。リーマンショック以降縮小していた放電加工機の生産規模が一気に過去最高といえる水準までになったため、製品部材の調達では大変苦労いたしました。苦労の甲斐もあり業績は大きく改善いたしました。もうひとつの主力事業である産業機械事業においては、LED関連向け需要が盛り上がりを見せるなど、時代の流れを反映した新たな需要の広がりを見せました。その結果、急激に進んだ円高による影響はありましたが、当初の予想を超える増収、増益を実現することができました。

期末配当金につきましては、1株につき6円の配当を実施させていただきます。この度、復配を実現できたのも株主の皆様、関係各位のご厚情のおかげでございます。心より感謝申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 藤原克英

CONTENTS

Sodick Corporate Highlights 1
 株主の皆様へ 2
 当期の業績 3-4
 特集 今後の経営方針について 5-6

連結財務諸表(要旨) 7-8
 株式情報/株式分布/会社概要/役員 9
 株主メモ 10

当期の概況

当連結会計年度のわが国経済は、アジア圏の新興国向け輸出の増加やエコカー・家電等の耐久消費財に対する購入支援策など景気刺激策の効果もあり、企業業績は改善し、緩やかではありますが回復基調で推移しました。一方、円高の進行、原材料価格の高騰など景気の先行きに対する不透明感は依然として継続しており、年度末に発生した東日本大震災による国内経済への影響は未知数ということもあり、先行きに対する懸念は増しております。

当社グループが属する工作機械、産業機械業界におきましては、中華圏市場が好調を維持したほか、欧州地域や米国においても世界的金融危機以降継続していた需要低迷は底を打ち、放電加工機の設備投資の需給環境は大幅に改善いたしました。また、LED製品市場の伸張を受け、同製品向けの射出成形機の設備投資需要も拡大しました。

このような経営環境の下、当社グループは急回復した放電加工機、射出成形機需要に対応するため生産の増強に努めたほか、開発においても新興国向けにコストパフォーマンスに優れた工作機械の開発も行いました。販売面におきましても世界的な工作機械の展示会「IMTS2010」（米国開催）、「DMC2010」（中国開催）、「JIMTOF2010」（日本開催）をはじめとして多くの展示会に出展し、ユーザーニーズの高まる自動化システムや環境負荷の低いリサイクル可能な消耗品を紹介し、顧客の獲得に努めました。さらに、新事業として今後市場規模の拡大が見込まれるLED照明事業にも新規参入し、業績の安定と向上に取り組みました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は前年同期比174億52百万円増(47.5%増)の542億13百万円となりました。また利益面では、営業利益は55億99百万円(前年同期は営業損失26億88百万円)、経常利益は39億44百万円(前年同期は経常損失30億73百万円)、当期純利益は51億11百万円(前年同期は当期純損失36億69百万円)となりました。

次期の見通し

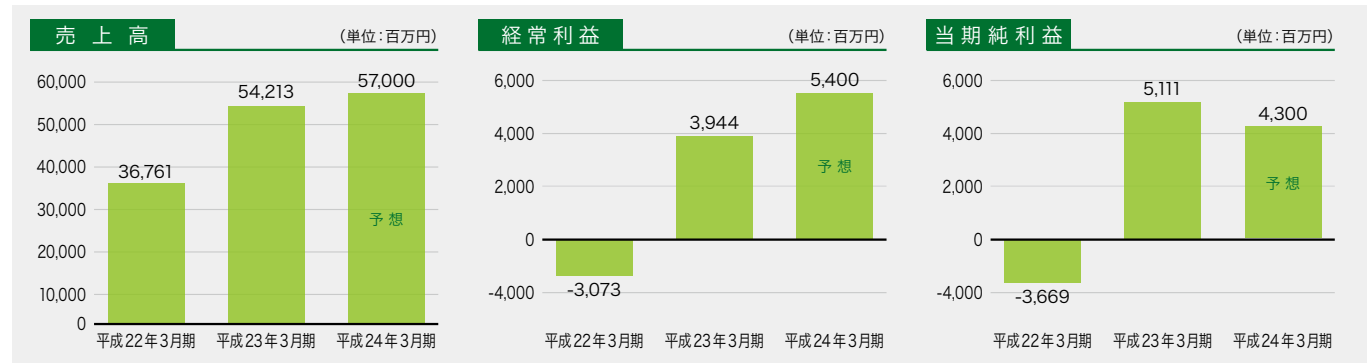
今後の見通しにつきましては、国内経済においては、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響による雇用情勢の更なる悪化や個人消費の低迷が懸念され、先行きについては極めて不透明ですが、海外経済においては、中国を中心としたアジア圏の経済が好調を維持することや、インドやブラジルなどの新興国市場も高成長が見込まれることから、外需による景気の下支えが期待されます。

このような環境の下、当社グループは、生産体制の見直しや原価管理の徹底などコスト削減を推進するとともに、将来性豊かな新興国市場への展開や高い節電効果で注目されているLED照明機器事業など成長性の高い分野で積極的な事業展開を行ってまいります。

平成24年3月期の当社グループの業績は、連結売上高570億円(前期比5.1%増)、連結営業利益63億円(前期比12.5%増)、連結経常利益54億円(前期比36.9%増)、連結当期純利益43億円(前期比15.9%減)と予想しております。

※上記の予想をする際に使用した想定為替レートは、対米ドル期中平均レート80円、対ユーロ期中平均レートは117円です。

連結業績ハイライト



セグメント別概況

工作機械事業 (日本)

国内の設備投資需要は、輸出企業の収益改善の影響もあり、需要低迷は底を打った感がありましたが、本格的な需要回復にはいたらず、弱含みで推移しました。ワイヤ電極線など消耗品販売・保守サービスの売上は設備の稼働状況が改善したこともあり、堅調に推移しました。上記の結果、当事業の売上高は133億7百万円となりました。

売上高構成比 **24.55%**

工作機械事業 (欧州)

欧州地域では、ユーザーの設備投資意欲はあるものの、欧州通貨危機の影響などもあり、新規設備には依然として慎重な姿勢が継続しております。上記の結果、当事業の売上高は38億75百万円となりました。

売上高構成比 **7.15%**

工作機械事業 (その他アジア)

当地域では自動車・二輪車向けの設備が好調だったことに加え、半導体関連向けの設備投資需要も見られ、順調に推移しました。上記の結果、当事業の売上高は29億54百万円となりました。

売上高構成比 **5.45%**

精密金型・精密成形事業

当事業は精密コネクタなどの精密金型・精密成形品の製造販売を行っておりますが、ハイブリッド自動車向けの精密コネクタの受注が安定しており、当事業は堅調に推移しました。上記の結果、当事業の売上高は34億48百万円となりました。

売上高構成比 **6.36%**

要素技術事業

当事業は、液晶製造関連業界の製造及び検査装置向けの精密ステージの製造販売、大型ファインセラミックスの製造販売、金型生産統合システムの販売から構成されております。当期においては、競合環境の激化はあったものの、液晶パネル製造機器向けの精密ステージの需要が順調でした。上記の結果、当事業の売上高は21億9百万円となりました。

売上高構成比 **3.89%**

工作機械事業 (北・南米)

北米地区では、医療機器向けや航空宇宙産業向けの需要が堅調に推移したことに加え、米国の設備投資に対する特別租税措置が実施されたこともあり、長期間にわたり低迷していた自動車向けの設備投資にも動きが見え始めました。上記の結果、当事業の売上高は31億72百万円となりました。

売上高構成比 **5.85%**

工作機械事業 (中華圏)

中国、台湾の設備投資需要は、中国経済の活況に支えられ、スマートフォンやネットPCなどの精密電子機器から家電、自動車関連向けまで幅広い分野で旺盛な需要が継続しました。上記の結果、当事業の売上高は124億22百万円となりました。

売上高構成比 **22.91%**

産業機械事業

当事業の主力製品である精密射出成形機は、国内市場では自動車業界向けに、海外市場では主に韓国、台湾でLED部品や電子精密部品向けに需要が見られ、業績は順調に推移しました。上記の結果、当事業の売上高は99億57百万円となりました。

売上高構成比 **18.37%**

食品機械事業

食品機械事業は、各種製麺機、麺製造プラントなどの開発・製造を行っております。当期においては大手食品メーカーからの麺製造プラントの受注状況が良好であり、また、製造工程の見直しや原価管理の徹底を行ったことにより業績は改善いたしました。上記の結果、当事業の売上高は28億17百万円となりました。

売上高構成比 **5.20%**

その他の事業

その他は、パンフレットなどの印刷物の制作事業や放電加工機、マシニングセンタ及び射出成形機などのリース事業から構成されております。当事業の売上高は1億47百万円となりました。

売上高構成比 **0.27%**

今後の経営方針について

～構造改革による収益基盤の構築フェーズから成長フェーズへの転換～

ソディックグループは、これまで取り組んできた構造改革により収益基盤が構築され、新たなグループの成長戦略を描き、取り組んでいく体制が整いました。今後の成長への大きな柱は、主力である工作機械事業の成長だと考えております。放電加工機の競争力を活かし、新興国市場の開拓で規模の拡大を図り、成熟市場である先進国市場では消耗品販売やサービス中心の事業で利益を確保してまいります。これらの成長領域に経営資源を集中し、その価値を高めることで成長を実現していきます。

●工作機械事業の成長戦略について



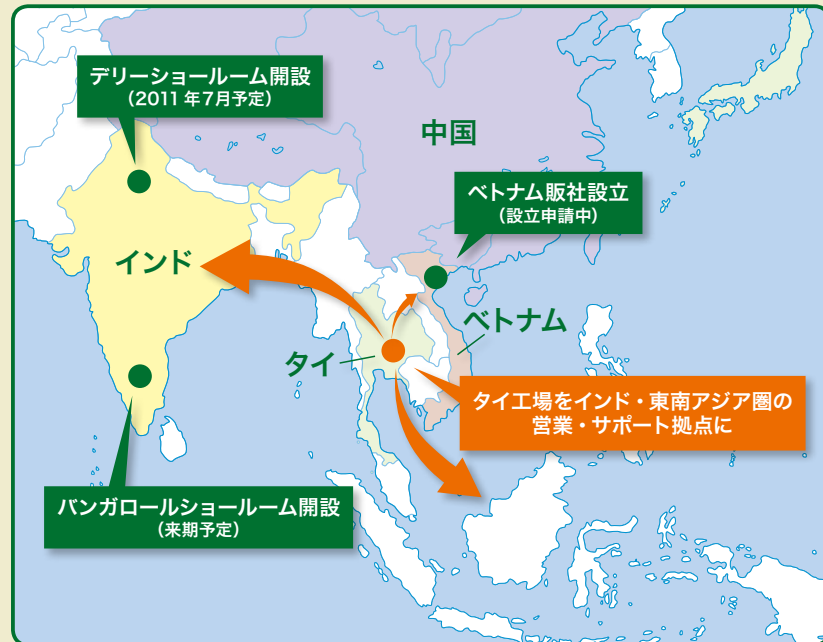
1 放電加工機の成長戦略 インド・東南アジアで拡販

今後10年間の主役はアジア圏

放電加工機市場では、アジア圏を中心とした拡販を目指します。中華圏では引き続き、牽引役として旺盛な設備需要が予測されます。ほかの地域では、短期的にはタイ、マレーシアなどの東南アジア市場の伸張が見込めるほか、中期的にはインド市場の爆発的な成長が期待できます。

成長市場への対応

中華圏に続く市場として期待される、タイ、マレーシア、インドネシアなどの東南アジア地域、そしてインドにおいては営業拠点を設置し、積極的にシェア拡大を図ります。熟練度の高い技術者が多く、地理的にも利便性の高いタイ工場の機能を強化し、営業・サポート拠点としていく予定です。



2 アフターマーケット事業の強化

国内では当社、他社の多数の放電加工機が稼働中であり、加工技術も高度であるため、高品位のサプライ品需要は安定して存在します。特に、ワイヤ電極線は、海外への拡販も考慮し、生産能力を強化します。

ワイヤ電極線工場(宮崎市)の設備増強

ソディックグループは、放電加工機ユーザーから使用済みになったワイヤ電極線を回収し、再生した製品「e-Wire」をお届けするワイヤ循環システムを確立しております。この「e-Wire」の生産を行っているワイヤ電極線工場の生産能力を大幅に増強します。ソディックグループは環境にやさしいモノづくりに貢献いたします。

製品生産能力 200t/月→300t/月

増産開始予定 2011年8月

総投資予定額 12億5千万円



ワイヤ電極線とは

ワイヤ電極線とは、ワイヤ放電加工機で使用する黄銅電極線です。ワイヤ放電加工は、電極線と加工対象物間で放電させて加工を行い、使用した電極線は使い捨てです。そのため、ワイヤ放電加工機の稼働時間と比例して消耗します。



Point

流動資産

流動資産は、前連結会計年度末比94億9百万円増の515億66百万円となりました。売上が好調に推移したことにより受取手形及び売掛金が25億64百万円増加したことに加え、販売量の増加に伴い、たな卸資産が40億76百万円増加していることが主な増加の要因です。

固定資産

固定資産は、前連結会計年度末比26億66百万円減の279億44百万円となりました。新規の設備投資を抑制し、償却額が投資額を上回ったことや、横浜市港北区新横浜に所有していた旧本社ビルを売却したことなどにより有形固定資産が19億57百万円減少したことが、主な減少の要因です。

負債の部

負債は、前連結会計年度末比24億33百万円増の513億52百万円となりました。財務体質改善のため、有利子負債の圧縮に努めた結果、有利子負債は17億4百万円減の334億88百万円となりました。一方、市場の回復により販売量や取引量が増加したことにより、仕入債務が25億31百万円及び前受金が7億63百万円、資産除去債務が2億18百万円増加し、合計では負債は増加することとなりました。

純資産の部

純資産は、円高の進行により為替換算調整勘定が減少しましたが、当期純利益の計上により利益剰余金が増加した結果、281億58百万円と前連結会計年度末に比べ43億9百万円増加いたしました。

連結貸借対照表

科目	期別	前期(34期) 平成22年 3月31日現在	当期(35期) 平成23年 3月31日現在
資産の部			
流動資産		42,156	51,566
固定資産		30,611	27,944
有形固定資産		23,786	21,829
無形固定資産		2,743	2,567
投資その他の資産		4,081	3,547
資産合計		72,767	79,510
負債の部			
流動負債		36,781	32,457
固定負債		12,137	18,894
負債合計		48,919	51,352
純資産の部			
株主資本		23,599	28,701
資本金		20,775	20,775
資本剰余金		6,949	5,879
利益剰余金		△ 1,990	4,181
自己株式		△ 2,135	△ 2,135
その他の包括利益累計額合計		△ 1,341	△ 2,249
新株予約権		24	23
少数株主持分		1,566	1,682
純資産合計		23,848	28,158
負債純資産合計		72,767	79,510

連結損益計算書及び連結包括利益計算書

科目	期別	前期(34期) 平成21年4月1日～ 平成22年3月31日	当期(35期) 平成22年4月1日～ 平成23年3月31日
売上高		36,761	54,213
売上総利益		8,887	17,626
営業利益又は営業損失(△)		△ 2,688	5,599
経常利益又は経常損失(△)		△ 3,073	3,944
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)		△ 3,422	4,003
当期純利益又は当期純損失(△)		△ 3,669	5,111
包括利益		△ 3,406	4,336

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	期別	前期(34期) 平成21年4月1日～ 平成22年3月31日	当期(35期) 平成22年4月1日～ 平成23年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー		7,256	3,216
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 693	△ 167
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 9,437	△ 1,965
現金及び 現金同等物に係る換算差額		△ 15	△ 447
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)		△ 2,891	636
現金及び 現金同等物の期首残高		18,693	15,804
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額		2	189
連結除外に伴う現金及び 現金同等物の減少額		—	△ 15
現金及び 現金同等物の期末残高		15,804	16,615

Point

営業利益

営業利益は、前年同期比82億87百万円増の55億99百万円となりました。中華圏を中心に売上が回復したことにより売上総利益が87億38百万円増加したことが主な要因です。また、売上増加に伴い運賃や販売手数料が増加した結果、販売費及び一般管理費は4億51百万円増加しております。

当期純利益

当期純利益は前年同期比87億80百万円増の51億11百万円となりました。営業利益が増加したことに加え、今後の業績見通しを検討した結果、繰延税金資産を計上することとなり、それにより法人税等調整額(税金費用)13億41百万円を戻入いたしました。その結果、当期純利益は大幅な増加となりました。

キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期比40億39百万円減の32億16百万円となりました。売上が好調に推移した結果、売上債権が増加したほか、生産増に伴いたな卸資産が増加したことが大きな要因です。投資活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に引き続き新規の設備投資が抑制傾向にあったことに加え、旧本社ビルを売却したこともあり前連結会計年度比5億26百万円増の△1億67百万円となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期比74億72百万円増の△19億65百万円となりました。前連結会計年度より短期借入金の圧縮による財務体質の改善に取り組んでおりますが、当期においては財務の安定性向上を目的として長期借入比率を高めました。その結果、主だった支出としては短期借入金の減少額95億6百万円や社債の償還による支出4億34百万円、また、主だった収入としては長期借入金による収入115億30百万円がございます。

株式情報 (平成23年3月31日現在)

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式総数	53,432,510株
株主数	15,775人

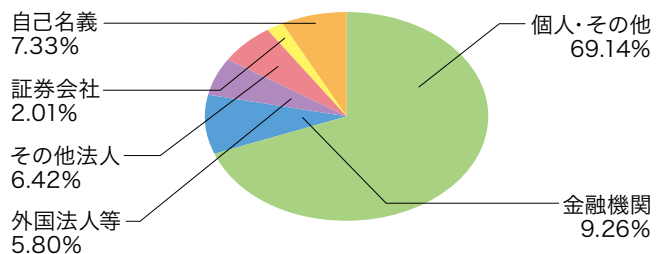
大株主 (平成23年3月31日現在)

株主名	名寄株式数(株)	持株比率(%)
株式会社ソディック	3,921,080	7.33
古川 利彦	1,195,975	2.23
有限会社ティ・エフ	1,150,000	2.15
大村 日出雄	1,029,400	1.92
ソディック共栄持株会	951,600	1.78
株式会社三井住友銀行	850,000	1.59
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	766,900	1.43
鈴木 正昭	726,260	1.35
株式会社北陸銀行	700,000	1.31
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	634,700	1.18

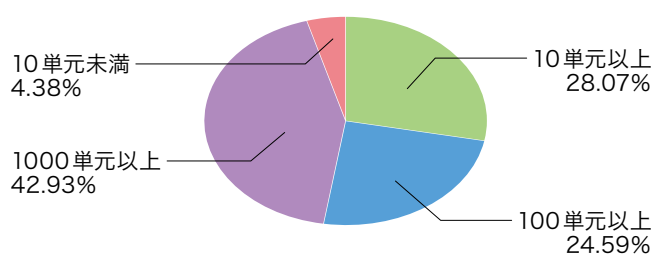
会社概要 (平成23年3月31日現在)

会社名	株式会社ソディック
所在地	本社 横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号 〒224-8522 TEL:045-942-3111(代表)
設立	昭和51年8月3日
資本金	207億7,575万6,958円
代表者	藤原 克英
従業員数	279人(連結2,793人)
連結子会社	29社
営業品目	形彫り放電加工機/ワイヤ放電加工機/細穴放電加工機/特殊放電加工機及び専用機(パレットチェンジャ、ロボットなど)/数値制御電源装置/放電加工機専用治具/ハイスピードミーリングセンタ/ナノ加工機/生産統合システム/精密射出成形機/工業用セラミック/産業機械向けリニアモータ/その他電気加工装置/放電加工機用ワイヤ電極線/精密金型・精密成形品/電子部材/各種ソフトウェア/食品機械/LED応用製品/委託研究及び製品開発/その他

所有者別株式分布状況 (平成23年3月31日現在)



所有株式数別株式分布状況 (平成23年3月31日現在)



役員 (平成23年3月31日現在)

代表取締役会長	古川 利彦
代表取締役社長	藤原 克英
取締役副社長	保坂 昭夫
専務取締役(営業統括)	高木 圭介
専務取締役(商品技術担当)	金子 雄二
常務取締役(営業本部長)	松井 孝
常務取締役(カスタマーエンジニアリング本部長)	唐戸 幸作
常務取締役(総合企画本部長)	古川 健一
取締役(欧米地区営業担当)	久保 光宏
取締役(生産本部長)	岡崎 秀二
取締役(国内営業統括部長)	島田 幸徳
取締役(研究開発本部長)	原田 武則
取締役	鈴木 正昭
常勤監査役	楠 左衛治
監査役(非常勤)	小山 秋吉
監査役(非常勤)	大木 國男
監査役(非常勤)	下山 和人

※監査役のうち、小山秋吉、大木國男及び下山和人は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
同連絡先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料)
特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第2部
証券コード	6143
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.sodick.co.jp/ir/ir-f.html ※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。

【ご注意】

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いができませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が特別口座管理機関となっておりますので、下記三菱UFJ信託銀行連絡先にお問合せください。
- 未受領の配当金につきましては、みずほ信託銀行本支店でお支払いいたします。

【株式に関するお手続きについて】

○証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料)
○住所・氏名等のご変更 ○配当金の受領方法の指定 ○その他のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

○特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取(買増)請求 ○住所・氏名等のご変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定(*)	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 【手続き書類のご請求方法】 ○音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) ○インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufig.jp/daikou/
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料)

(*) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

単元未満株式の 買増・買取制度について

株主さまのご所有株式のうち、1単元(100株)未満の株式につきましては、証券市場で売買することはできませんが、次のいずれかの制度をご利用いただくことが可能です。

1. 単元未満株式買増制度

ご所有の単元未満株式とあわせて1単元となる数の株式を当社からご購入いただく制度です。

2. 単元未満株式買取制度

ご所有の単元未満株式を当社が買い取らせていただく制度です。